

・・・雨でも休まず、221回、222回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1、9月 1日（第一土曜日）；小原本陣の森・担い手育成、技術向上
    - \* 地域と協働森林整備の兆し、参加費400円
  - ・ 定例活動2、9月16日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
    - \* 9月は栗拾いも出来る。参加費400円
    - \* 今月は、森でFSC・1年目の維持審査があります。
- 
- ・ 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・ 服装：汚れても良い服装、着替え、長袖、夏は黒色を避ける、滑らない足元
  - ・ 持参品：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（碗・箸）飲料水
- 
- ・ 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です

### 森林と都市をつなぐ（1、緑のダム体験学校、2、甲州古道復元事業）

当会の森林の保全・再生活動は、全ての人々（地域・都市＋学際＋業際＋行政）」を主張しており、其の具現化のために参加がし易いよう以下の3本の活動の柱、6本の事業で構成しています。

- 1、森をつくる            ：若柳嵐山の森、小原本陣の森
- 2、森と都市をつなぐ：緑のダム体験学校、甲州古道復元
- 3、森をいかす           ：相模川流域材利用、森林広報

「緑のダム・森林体験学校」では、作業体験を通してCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の固定化や緑のダムとしての森林の保水性の意味などを分りやすく解説すると同時に、森林の美しさや楽しさを知ってもらう工夫をしています。また、最近では森に来ると何故、心が休まるかも解明出来ており、その科学的な根拠も交えて体験してもらえるようにしています。そして、森林活動を10年も継続すれば、それなりのノウハウの蓄積もあり「緑のダム体験学校」では更に一歩進めて「緑のダム・森林整備学校」というプロの人材養成システムの検討を初めています。

「甲州古道復活」では、都市の方々を対象に荒廃森林の現況や森林活動参加の引き金になる事を目指しています。狙い通りには行きませんが、この活動は話題性があるからか新聞や雑誌で記事にされることが多くなりJR東日本もルートマップも作ってくれて、ハイカーの増加と言う別の形の効果が上がっています。古道は、相模原市の観光資源としての取り組みや、今年に入ってから、国交省との協働も始まり、活動に厚みが出てきています。

**定例活動報告 小原本陣の森**：2007.8.4(土)/晴。32

・参加者：佐々木・丸茂・斎藤・石綿・宮村・川田(記) = 6名 (大坪・松尾は嵐山で作業)

・作業内容：午前/石井山上部の尾根付近の整備。午後/拠点付近の山裾の再整備。  
(次回9月1日予定：午前/中里山への経路整備。午後/拠点付近の山裾の再整備)

**概況**

ようやく梅雨も明け、本格的な夏の到来で、厳しい暑さの中の作業となった。

空には太陽がキラキラと輝き、森の中は木陰とはいえ、じっとしていても汗がにじんでくる。

本日の作業は、石井山の跡片付けである。昨年未から本年3月まで石井山で枝打ちをして、枝打ち後の切り枝は、土留めのために等高線に沿って積んで処理した。その際に山火事対策の視点が欠けていたため、高積み・薪積みになっている箇所がある。これを低積みにすることで、地面に近くして腐り易くし、土に帰るのを早めるとともに、山火事の際に燃えにくく、炎が立ち上がりにくい様に、積み直す作業である。

(斎藤さんの見解では、昔は枝打ち後、高積みし、乾燥した後、集めて薪にしたので、高積みで良かった。現在は薪にすることはなく、落枝は早く土に返すのが良いとされ、山火事防止等のためにも高積みにすべきでない)

拠点で道具の準備中に、小林さんが大鎌を担いで、一人で山の手入れに登ってきたので挨拶を交した。20分位の急な登りを石井山の尾根まで上がった。暑さのため、まずは一休み。

枝の積み直しに際し、斎藤さんの提案で尾根筋の防火帯の確保を意識して、山積みの位置を移し、低積みに直した結果、5m幅位の防火帯が現れた。尾根で気が付いたのは、松枯れで、枯れて倒れた松や、立枯れした松が10本位認められた。

これらについての対応は、次回の経営運営会議で相談する必要がある。

午前中は、出発が10時30分と遅くかったので、途中で1回の休みを挟み、12時40分まで作業した。拠点への下りの斜面は、以前は地面むき出しだった箇所も、かなり雑草に覆われていて、山の生命力を感じた。拠点に戻った時は、汗だくだくであった。山の上と違い、拠点小屋のところでは、風もなく気温も高く感じた。小屋の裏の小川で顔を洗うと、冷たい水で生き返った気がした。

昼食には、石村夫人の手作りの冷汁とサラダ等が待っていた。本当に美味しく、皆は何杯何倍もお代わりをした。昼休みの間に面白い経験をした。遠く石井山の奥から微かにヒグラシの鳴声が聞こえて来て、鳴き交しながら段々と近づいてきたかと思うと、我々を取り囲み、我々に抗議しているのかと思われる程のやかましく鳴いた。余りの大きさに不気味さを感じた程であった。暫らくすると鳴声は小林山の奥へと移って行き、ついに全く聞こえなくなった。休憩の間に、これが数回程繰り返された。

ファール佐々木さんは、「鳥の場合は縄張りを主張するために、侵入者の周りに集まって来て、鳴いて脅かし追い出そうとすることがある。ただし、セミについては、そんな話は聞いたことがない」と、いいながらポケットに隠していた、多数のセミの抜け殻を取り出して、ヒグラシに謝っていた。

休憩の終わりの頃に、小林さんが汗でびしょりになって、山から下りてきたので、一緒に冷汁を食べて頂いた。暑い中、1人でお疲れ様でした。

午後の作業は、2時から拠点付近の斜面の片付けを行った。道から見ていると判らないが、斜面に上がってみると、

雑に放置された枝がある。道路からの景観を配慮しつつ、それらを等高線に沿って並べ、低積みにして片付けた。

また、斜面の傾斜木も、倒木による土砂崩れ防止の視点から、何本か大枝打ちした。

3時半頃に作業を終了し、川で汗を洗い、心身を清めた。

駅前ですいつもの「かどや会議」で本日は終了。

次回：午前中は中里山への経路整備、午後は拠点付近の山裾の整備とする。

(小原本陣の定例は人数が少ないので、もう数人参加者がいても良い。経営運営会議で相談)

#### \* 緑のダム・森林整備学校・計画：東林業訪問(大月市・笹子町)

- ・ 目的：素人ボランティア程度の技術では限界があるとの認識の下、林業技術では右に出る者にはいない東林業(河野東社長)の指導を受けることとし相談のため訪問した。当会は、河野社長のご指導で「小原本陣の森：緑のダム・森林整備学校」を計画している。
- ・ 成果：超多忙の河野社長に毎月、小原本陣の森に指導に来て頂くことは不可能だから、整備の夫々の段階で何を成すべきか、宿題と言う形でご指導受け、その結果に付いてチェックをして頂くことにした。今日の相談段階で河野社長の森林に関する考え方は、極めて深い哲学的な思想に裏付けられていると感じた。

(この項、来月号にも続きを掲載)



手入れ前の森の状況

お盆連休最後の休日、これから残暑。夫々のパートで熱中症に気をつけながら、充実した一日の45人参加。

川田隊長・宮村副隊長の率いる「望星の森隊」では、昨年植えた栃の木の除草刈り。3年前に植えた栃の苗木を覆うように夏草が茂っている。これらを刈ると整然と栃の幼木が姿を現した。中には木陰を作るくらいにスクスクと育った木もある。急斜面の灼熱の作業の中「夏を迎え撃て!」、「そうだ、夏は暑いものなんだ!」・・・と言っても熱中症になったらアウト。

沢ではファール佐々木氏の指導で倒木の除去作業。沢から巨木倒木を引き上げるには、泥水をかぶったような汗まみれのサスガの怪力マツチョマン白石ちゃんにも限界あり。午後、チルホールド(簡易巻き上げ機)を使って女子大一回生屋井(オクイ)さんが挑戦していた。



チルホールドについて教える佐々木さん、教わる屋井学生

緑のダム学校(齋藤学校長)では、小4の長井みなみちゃんファミリー一家他、8名参加。サスガ、齋藤先生!CO2と森林の関連性を小学生にも分りやすく説明(私も大いに勉強になりました)それにしても夏草の茂りようは、何時もより歩行困難です。

午後、木工房の周りの篠竹刈りは、「初参加者の作業とは、とても思えない出来栄え!」とお褒めのお言葉を頂いた“緑のダム体験学校班”でした。

丸茂班長指導によるガーデニング班は、相変わらず夏草との戦い。青山さんは草刈と剪定と生垣づくりに精を出し、今朝見たときとは大違い、綺麗、スッキリ。



ベンチが出来て喜ぶ滝澤少年

木工房では大坪師匠のご指導で滝澤学生が素敵なベンチづくりに励んでいた。其のベンチ、足が木の肌そのままのナチュラルな、それぞれの美しさで、こんなイスのあるカフェでお茶なら最高。

かくして、今宵も駅前カドヤでの汗かいたあとの“生ビールの美味さと歓談”で幸せなり・・・。

伊藤さんの報告は、独特の言い回しで洒脱。連日のこの暑さにゲンナリしていたが、“夏を迎え撃つ!”なんて、何でも前向きに考えたい俺的には、好みの表現、面白い表現だ。引き続き、この調子で頼むよ。〔石村記〕



## 視察：大月ウエルネスパーク(大月市扇山)

石村報告。

活動を更に進化させるために8月26日、NPO 緑のダム北相模と学生連合 Forest Nova の有志8名で以下の視察を行った。

- ・目的：相模原市の指導する「相模湖・小原宿活性化推進協議会」は、小原の郷に活性化のための事業案募集をしている。当会は、小原本陣材を使って「小原宿・森林活性化情報センター」を提案するために、本年8月に開業した大月ウエルネスパークを視察した。
- ・成果：丹沢と富士山を臨む雄大な風景が広がる大月扇山東斜面にそこはあった。ここでレストランを経営する吉野 勝さんに事業展開の様々なノウハウを聞かせて頂いた。提案案件の「小原宿：森林活性化情報センター構想」に付いて企画のご協力を頂くことになった。

## 提案：緑地保全協業バンク(仮称)

文責：緑のダム北鎌倉代表：兼松まゆみ



私達、神奈川森林NPOは、2004年の台風(22・23号)で崩壊した民有林を約3年間にわたって手入れさせて頂く機会を得、他地域の状況も観察する内、鎌倉市内の山が、いかに手入れ不足であるかを痛感した。常緑樹林ならまだしも、落葉樹林でも竹林でも鎌倉の山全体が暗く、林床は裸地または貧弱な植生である。樹林・竹林共に密度が高く、併せて樹林は樹高が高い。特に歴史的風土特別保存地区(古都保存法)ならびに近郊緑地保全区域(首都圏近郊緑地保全法)および自然環境保全地

域(自然環境保全法・神奈川県自然環境保全条例)等の適用地域での状況はひどい。

長年市内外の山の手入れを手がけてきた仲間は「行政が、頭も体も全く動かそうとしない」と指摘する。これでは、大雨、大風に崩れるのは当たり前と実感した。そればかりか、逆に「保安林だから、古都保存法6条地区だから、木を切ってはいけない」と『動かないことの』言い訳に明け暮れし、市民に対して誤った情報を吹聴している節さえ見える。

鎌倉を含む三浦半島地区は海底から隆起した粘土質あるいは砂質の母岩の上に、火山灰が堆積した土層の浅い、しかも谷戸と斜面ばかりで平地の無い地域である。

山の手入れに詳しい仲間が行政に対し、「手入れをしなければ鎌倉の山がだめになる」と長年にわたって進言しているにもかかわらず聞く耳を持っていない。

これでは、崩落は後を絶たず、県の負担は増すばかりか、『天然の要害地を売り物にしている歴史都市が、コンクリートの擁壁に囲まれた、不細工な近代都市?』に成り下がってしまうのも時間の問題である。

崩れそうな、あるいは崩れた斜面をコンクリートで固めてしまうことは容易である。

しかし、森林法による保安林も古都法による6条地区も元気な樹林の存在を求めているのではないだろうか。下枝も無く樹高の高いヒョロヒョロな木は、どの種の保安林にも向かない。クズに覆われ、樹形も樹種も判らないような荒れた山は6条地区には向かない。



## 学生連合・Forest Nova :活動報告

報告 滝澤 康至(麻布大、環境政策学科3回生)

Forest Nova は7月21日に、来年親子対象のキャンプを行うに当たってこのフィールドで何ができるのか把握するための日帰りサマーキャンプを行いました。

### ・流しそうめん

流しそうめんからは嵐山から弁天橋に移って行いました。ここでは、竹をセッティングする係とそうめんを用意する係、火をおこす係の3つのグループに別れて参加者全員で準備をしました。

竹は一週間前に地主の鈴木様のお宅裏から伐倒したものを使用しました。竹の伐倒の仕方は針葉樹や広葉樹とは異なり難しかったです。ロープで力を入れながら倒したい方向にノコギリで切っていきます。また、その場は斜面であるため、いつも以上に大きな声で合図をすることを心がけました。



伐竹する Forest Nova の学生

流しそうめんの完成に時間がかかってしまいましたが、竹を切ってから流しそうめんにするまでの過程と火を木から起こすために大鋸屑にしたり、ナタで調度良い大きさにしたりと貴重な体験ができたと思います。また、おわんやはしも竹でつくるなど、自然の恵みからものづくりができることを改めて教えてくれました。



流し素麺にはチーズも流れていました

### ・笹刈り

昼食後はヘルメットと軍手を着用して蛍狩りに使う笹を採取するために森林整備体験をしてもらいました。

今回の下草刈りは、参加者の方々に下草刈りというものを通して、「森林整備はどのような考え方・プロセスで行われているのか知ってもらおう」という事を一番の目的としていました。

この笹は蛍狩りに使いました

現在の日本の森はどのような仕組みで成り立っていて、それらを

整備する上でどんな考え方が成されているのか分かってもらいたい。そして、森林整備はただ趣味で整備している訳ではない。しっかりとした考えの元で整備をしている事を知って欲しい思いで企画に臨みましたが、やはり慣れていない事を話すとなると練習が必要だなとつくづく思いました。

このように、私達は森と人をつなぐための仕掛けや親子に向けた自然体験による環境教育の側面から今後も“キャンプ”を行っていきたいと考えています。

しかしながら、今回は水や電気がない状況の中で実施できたのは緑のダムの方々のご支援があったからだと思います。その点を感謝しつつ、私達の課題として取り組んでいきたいと思います。また、今回で得た収益は今後の Forest Nova の森林保全・再生活動資金にあてていくことにしています、ありがとうございました。





4年前から、新川崎JR貨物跡地で川崎市の環境保護団体・「NPO法人幸まちづくり研究会」と組んでネイチャーフェスティバルと言う水源の森林地域と水の消費地域川崎市をつなぐ広報活動を行っている。今年で4回目を向える。

今年、相模湖町など旧津久井四町は、相模原市との合併を終えて、相模原市は今まで5%の緑比率が一挙に約58%に上がった。森林地帯・旧津久井郡の19000ヘクタールの森林が相模原市域内に合併したからである。このことは、相模原市が神奈川県の上水の61%を供給する水源の森を守る立場になったことを意味する。一方、川崎市は相模川・沼本ダムから相模原市の地下を通る導水管を経て毎日、52万トンの水の供給を受けており、相模湖町（相模原市）と川崎市は地中を經由して直結したと言う事になる。

川崎ネイチャーフェスティバルは過去3回、神奈川県・山梨県・川崎市の後援を得て実施して来た。神奈川県からは、「ボランティア基金21」の支援、山梨県からは原木の供給、川崎市からはJR貨物跡地の減免処置による土地使用料を無料で使わせて頂いている。このような関係から、第4回を向える今年は、相模原市の後援をお願いすべく後援依頼のため相模原市長面会をお願いした。

関連：加山相模原市長に面会　：8月17日（金）



永井宏一代表理事(NPO法人緑のダム北相模)の案内で千葉美佐子委員長(第4回ネイチャーフェスティバル実行委員長)他、関係者6名は、お昼休みを利用して市長室を訪ねた。

相模原市	加山市長	ネイチャーフェスティバル	NPO法人緑のダム北相模
	戸塚環境経済局長	千葉実行委員長	永井宏一代表理事
	森 環境対策課長	鈴木副委員長	丸茂理事
	小峰農林課長(案内)	石村監事(案内)	吉田監事

千葉委員長は、このイベント広報の目的・趣旨・意義に付いて述べ、市長からは実際の活動内容に付いて幾つかの質問があった。この広報イベントのテーマは「木を使うことは、森を守ること」であり、これに関して加山市長からは、「伐出～製材～販売」に付いてどのように進めるかと言う質問が出た。森林経営は、保全・再生と同様、木材流通をどうするかが問題であり、市長の鋭い質問に相模原市の森林に掛ける意気込みを感じた。

現状の森林経営の矛盾と逼塞は、森林現場と流通が乖離したところに問題点があり、江戸時代紀州様の頃からの様々な制度的なひずみが絡み合っていて、身動き取れなくなっていることによる。余りにも巨大すぎる課題だが、このようなことの解決の糸口は、何者にも制約を受けない自由で柔軟な発想のできる、行動の敏速な市民活動・森林NPOこそ取り組む意味があると思う。

## アンケート回答：第20回：環境への配慮：希少動植物の保護

FSCは、森林管理を「社会・環境・経済」三本柱で構成している。当会は社会との協調の為に当会に対するアンケートを行いました。FSCは、当会がアンケートの応えられる活動を求めています。

**質問：**密猟・盗掘の対応が必要です。この森が私有林であり禁猟区であるに係らず、密猟者が入っているようです。昨年6月、メジロ狩りをする二人連れを見かけました。また、林内で焚き火跡や密猟の仕掛けを見つけました。警察に通報したり注意を促す看板の設置なども必要ではないでしょうか。

**回答：**お説の通りです。私も密猟者を見かけて退去を求めましたが、これはなかなか危険を伴う作業です。相手は確信犯でヤクザからみの裏商売人が殆どですから、当方にそれなりの構えがなければ、怪我をする恐れもあります。そこで絶対に一人では対応してなりません。無闇に警告すれば相手はプロですから危険です。基地に戻って数人の応援を求め、撃退用の防衛棒などを準備して警告する者と、穏やかに退去を促す者との役割分担を決めてから取り組みようにしています。そして、退去を見届ける必要もあります。車で来ますから、「警察に届けはしませんが、一応・・・」とか言いながら車のナンバーを控えることもします。そうすれば、「帰るから、帰るから」とか言って退去してくれます。それ以来、密猟者は来ないようです。

エビネなどの貴重種の盗掘もあります。京王線などで綺麗な花の車内広告もあります。ハイカーが帰路、持ちかえっている光景なども見かけます。注意して連れに囲まれて脅されることもありました。列車内での携帯電話を注意して怪我をさせられたなどの新聞の報道に出くわすこともあります。注意することは度胸の要ることです。

森林は公益的な存在ですから、私有林だからと言って入山がいけないと言う事ではありません。FSCの規定の中に森林は地域に開放することを勧めています。森林は、完全な私物化はみとめられていません。

花火大会での灯籠の様子



### 夏の風物詩

恒例の相模湖花火大会は約7万人を集めて、午後6時30分から始められた。

水源の森を守る当会は特大の灯籠を湖に浮かべた。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定非営利活動法人緑のダム北相模  
事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636  
H P : <http://midorinodam.jp>  
E-mail : [moritomo@rk9.so-net.ne.jp](mailto:moritomo@rk9.so-net.ne.jp)

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブーンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金 神奈川建具組合